

幼児期のエネルギー環境教育における実証的研究

－オーストラリア「cool.org」の「hot and cold」を活用して－

中村俊哉（常葉大学） 馬場千夏（半田山こもれび保育園）
中村春菜（早稲田大学 大学院）

キーワード：幼児教育 保育 未満児 エネルギー教育 SDGs

1. はじめに

環境教育は、幼児教育からそれぞれの段階におけるねらいを踏まえ行っていく必要があるが、環境教育の一部であるエネルギー環境教育の幼児期の研究においては、これからと言える。¹⁾そこで、これからの幼児教育のエネルギー環境教育を検討していくためにも、すでに教材化されているオーストラリアの「Cool.org」の教材プログラムを活用した実践を行うこととした。

2. オーストラリアの「Cool.org」の教材プログラム

Cool Australia は、オーストラリアの非営利団体であり、「Cool.org (旧 Cool Australia)」という、教材プログラムを提供しているサイトを運営している。幼児教育から、高等教育までを対象に、英語、数学、科学など幅広い分野の教材が提供されており、「2008年以來、世界中の175,000人を超える教育者」が、教材をダウンロードし、使用している。本研究は、幼児期のエネルギーを対象とした7つのプログラムの内、0-2歳、2-3歳、3-5歳を対象に作成されている「hot and cold」を使用する。

3. 浜松市の保育園における実践

2023年7月10日am10時から、20分程度、浜松市の通称未満児(1,2歳児)を対象に「hot and cold」を基本とした実践を行った。

【「hot and cold」を基にした実践計画の流れ】

①絵カード（やきいも、太陽、アイスクリーム、水など）を使って暖かいものか冷たいものかクイズをし、身近に暖かいものと冷たいものがあることを伝える。	②少人数（3グループほど）に分かれて事前に準備したガラス、アルミ缶、冷水、温水、紙、氷、ペットボトルに子供が触れる。	③暖かく感じるか冷たく感じるかを言葉やしぐさで表現する。	④園庭に出てどんなものが暖かく、または冷たく感じるか色んなものに触れてみる。（砂、芝生、木など）	⑤氷を太陽の光にあてて氷の変化を観察する。	⑥太陽の力でもものが暖められることを確認する。
--	--	------------------------------	--	-----------------------	-------------------------

4. 実践に関わった保育者の認識

実践に関わった5人の保育者からは、保育者指針の内容にはあっているという回答であった。楽しく取り組んでいたようだという回答も多かったが、発達段階を考えると未満児には、難しかった場面もあったという意見が寄せられた。

5. おわりに

オーストラリアの「Cool.org」の教材プログラムを行った。日本の保育者指針にも内容があっていると現場の保育者にも受けられたが、発達段階や日常の取り組み等の子どもの実態に合わせた実践が必要であると考えます。

1) 中村俊哉（2023）幼児期の教育に関わるエネルギー環境教育の動向エネルギー環境教育研究 17